

研究区分	教員特別研究推進 地域振興
------	---------------

研 究 テーマ	出産後地域で生活する 2 週間の間に初産婦が抱く不安の実態				
研究組織	代 表 者	所属・職名	看護学部・助教	氏名	高橋 明味
	研究分担者	所属・職名	看護学部・教授	氏名	太田 尚子
		所属・職名	看護学部・准教授	氏名	中川 有加
		所属・職名		氏名	
	発 表 者	所属・職名	看護学部・助教	氏名	高橋 明味

講演題目
出産後地域で生活する 2 週間の間に初産婦が抱く不安の実態
研究の目的、成果及び今後の展望
【研究の目的】 厚生労働省の調査（2021）では、年々産後うつハイリスク妊婦の増加や育児中の母親の孤立が問題視されている。精神疾患の存在と育児負担が、虐待死の大きな要因とされており、不安や負担を抱え心身のバランスを崩しやすく、心身のケアや育児サポートが必要とされている。健やか親子21などの国の政策においても、妊娠期から子育て期にわたる切れ目ない政策を推進しており、妊娠期では保健センター、分娩期では分娩施設、産後では保健センターが主体となって、各機関同士が情報を共有しながら母子のフォローを行っている。母親が産後体力回復に努めながら育児技術を習得していくには、分娩施設での入院期間は十分とは言えない現状がある。退院後は医療者から離れ、家族だけでの子育てを開始するため、特に不安が高まると考えられる。特に、医療者がいない環境ではじめての育児が始まる、退院してから産後2週間健診までの期間の医療者による介入が、育児不安の軽減や育児をする上での自信につながるのではないかと考える。そこで本研究では、退院から産後2週間に焦点をあて、文献調査を行い、産後1か月を経過した母親から直接、退院から産後2週間の間にどのような不安を抱いていたのかインタビュー調査を行い、母親が抱いている不安を明らかにすることを目的とする。 【成果及び今後の展望】 医学中央雑誌 Web 版、PubMed を用いて、「産後」「退院後早期」「育児不安」「母親」をキーワードとして文献を検索し、検討した。産後に母親は、新生児の夜泣きや皮膚トラブル、体重増減、排泄状態の対処方法に対する不安や長子の覚醒にディストレスを抱えていることが多い。また、母親が退院後早期に感じる育児不安の要因として、育児のイメージ不足、母乳育児の自信のなさ、育児困難感、産後の疲労感、多様な情報への戸惑い、不安的な情緒の母親の主観的感情と、育児支援環境の不足、身近な育児支援者不足の育児環境や育児支援者による要因が明らかとなっていた。しかし、これらの研究における対象者は初産婦と経産婦が混合しており、分娩歴は育児不安内容に影響を与えと考えられる。そのため、初産婦における退院後早期の育児不安を明らかにすることで、産後の母親が育児不安を抱えやすい時期に、医療者が行うケアの方向性が明らかになると考える。また、産後 2 週間と 1 か月の時点でのビデオ通話による母乳育児支援が、母親の不安、母乳育児自己効力感、新生児の健康に有益な効果を示すことが示唆されている。今後、退院後早期の初産婦が抱える育児不安を明らかにしたうえで、現在における子育て世代の母親の育児不安を減らすにはどのようなアプローチが簡便で、どのような内容の介入が効果的かを検証していく必要があると考える。